第 3 回八代市住民自治推進検討委員会資料
平成 18 年 4 月 28 日（金）13:30～

１、住民主体の取り組みに向けて

（１）協働のあり方

■行政主導から地域主導へ
地域自らが解決に向け、判断・行動

■一律から選択へ
地域の自主性を尊重していく

（２）市民の役割

住民 1 人ひとりが地域社会に関心を持ち、自分たちのまちは自分たちで守り育てるためにどういう意識を持っていくのか

【例題】

・自らが地域の問題解決に向けて協力しあう意識を持つこと
・自らが行政の活動やまちの将来について関心を持つこと

（３）行政の役割

住民の方が活動しやすい環境づくりや住民の自治力をたかめるための支援策をどのように担うべきか

【例題】

・行政情報を積極的に提供し、市民との情報の共有化を図ること
・市民との対話づくりなど、市民参加の環境整備を図ること
・市民のパートナーとして信頼を得るよう職員の意識改革を図ること

（４）市民と行政の連携

協働のまちづくりを推進するパートナーとして、市民（住民、ボランティア団体等）と行政がそれぞれ役割を認め合い、地域活動の活性化を図っていくにはどうあるべきか

【例題】

・住民と行政が対等のパートナーとして連携・強化を図っていくこと
・自主性・自立性の確保

## ２、住民自治を目指す仕組みづくり

### （１）仕組みづくり

■部会型：坂本地域振興会の組織構成

■並列型：各種地域活動団体等を束ねた組織構成

現在、八代市では 218 の行政区（平成 17 年 8 月現在）があり、そこから３８３の最小単位の自治会組織を作り出している。ところが、最小の自治会の規模は 2 世帯で、最大が 626 世帯と大きな格差がある。（平均 131 世帯）

今回考える「新たな住民自治組織」は、自治会単位で対応することが不可・困難なものに取り組むことができる組織づくりを検討している。

そこで、何がコミュニティの求心的役割を果たしているかを考えると、子供を通じての活動が多く見られる。

地域活動として、地域の中で知らないもの同士が結びつくきっかけは、子供を介しての場合が多く見られ、ある一定の組織単位が期待できる。

喫緊の課題である、交通安全や青少年健全育成等の施策を進める上で、子供たちを介しての連帯がもっともスムーズであることから、小学校区を新たな組織単位にすることが望まれる。

【例題】

パターン１

小学校区単位での組織構成

パターン２

旧小学校区単位での組織構成

パターン３

いくつかの自治会を束ねた単位での組織構成

### （２）注意点

それぞれの自治会では、多種多様な活動を行っており、新たな住民自治組織と活動内容が重複しないように注意し、広域的な観点から考えていく必要がある。

【例題】大規模災害の発生

新たな住民自治組織の役割：避難所の割振り、衣類・配食

自治会の役割：事後被害パトロール